

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690200148		
法人名	医療法人 近藤内科医院		
事業所名	はるかぜガーデン御前		
所在地	京都市上京区下立売通七本松西入西東町339番		
自己評価作成日	平成30年9月10日	評価結果市町村受理日	平成30年11月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosvoCd=2690200148-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ		
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町21		
訪問調査日	平成30年10月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所が特に力を入れて取り組んでいる点として法人の理念である「仕事を通じて全ての人々の幸福を追求して実現します。地域との共生を図りながら地域福祉に貢献します。」をもっと一に職員全員で取り組んでいます。地域の行事や研修会等に参加したり、施設での行事に地域住民を招待したりして地域に密着できる施設運営に努めています。今後も利用者様・家族・地域住民・その他関係者の皆様との交流機会を設け地域福祉に貢献できるように努めて参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は古くから京都の織物業を支えてきた地域に位置し、開設2年目を迎えます。近隣には図書館、小学校があり、神社仏閣も多く、昔から継承されてきた行事や祭りなどもあります。開設当時から地域に向け、事業所の取り組みや協働体制などを多く発信することで、地域に根ざした事業所となるよう努めています。各種委員会が運営されており、特に「レク委員会」は毎月行事を企画し実施しています。北野天満宮の「ずいき祭り」には子供神輿の子供たちを昼食に招き、入居者との交流を楽しみました。上京区の事業者連絡会「ささえ愛の会」に参画し、毎月会議に参加することで他事業所と情報交換を行っています。更に、地域のよろず相談窓口として「ささえ愛の会」のほりを玄関に設置するなど、事業所の取り組みを地域に発信しています。地域にある他事業所と合同で事例検討会を開催するなど、職員の資質向上に努めながら、他事業所とも良好な関係構築を図っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットの理念をフロアに掲示し常に意識しながら実践に繋げている。年に1回は見直しを各フロア会議で行い、管理者と職員が共有できるようにしている。	法人の理念をふまえ開設時に職員全員で各ユニットごとに理念を作成し、実践に努めています。朝礼で唱和すると共に、毎月開催するユニット会議で共有しています。開設2年目を迎えて、理念の見直しを検討しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民・民生委員・地域ボランティアの方にもご協力いただき地域行事への参加や施設行事への参加して頂いている。	町内会へ加入し、地域行事参加のお誘いを受けています。「ずいき祭り」では子供神輿が事業所に立ち寄り、昼食を提供すると共に、入居者との交流を図っています。週末に小規模施設と合同で開催するカラオケ大会にも近隣の子供たちが参加するなど、地域とのかかわりを大切にしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉避難所として地域の方に広報活動をしている。運営推進会議や地域交流会等の際には個別で時間を設けるなどし、介護についての相談なども行うようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において事業所の利用状況や行事实施状況等を報告させていただいている。その他その時に応じて情報提供も行うようにしています。会議後は個別相談の時間を設けています。	入居者、家族、民生委員、地域包括が参加して2か月に1回開催し、毎月発行する広報誌「みんなの和」を配布し、運営状況を報告しています。ご家族より季節を感じる料理の提供やイベントを増やしてほしいという要望を聴き取り、レク委員会で検討し、意向の実践に努めています。	開設当初は自治会や学区の社会福祉協議会へ運営推進会議の案内を送っていましたが、参加にまでは至っていませんでした。今後、地域とのかかわりを更に深めて頂くために、開設当初にたち戻り、自治会等に参加の協力を求められることをお勧めします。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	上京区の担当課とは定期的に報告を行っている。区(仁和包括等)が主催する事業所連絡会や地域ケア会議に定期的に参加し情報交換を行っている。	行政には運営推進会議の案内を送っていません。更に、議事録は役所窓口に届けることで顔の見える関係を築いています。事業所連絡会や地域ケア会議に参加、上京区の34事業所が参画する「ささえ愛」活動にも参加し、協力関係を築くよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に向けマニュアルを設けており定期的に委員会が中心になり研修を行い正しい理解を職員間で共有できるように指導している。	各種委員会を設け、マニュアルが策定されています。年2回身体拘束をしない研修が開催され、入居者の状況を把握し、アプローチの仕方に配慮がなされています。職員の言動で気になるときは、管理者が都度指導を行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コンプライアンスルール(利用者権利擁護指針)を掲示及び職員がいつでも見れる場所に保管している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コンプライアンスルール(利用者権利擁護指針)を掲示し職員の意識付けを行っている。その他の制度については研修等を行う機会を設けるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を締結する際は重要事項説明書・利用契約書・同意書を本人・家族に説明し、理解・納得して頂いた上で、署名・押印して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	関係者の方から多くの意見が頂ける様に投書箱を玄関端に設置している。その他アンケートも行い、結果報告は運営推進会議などで報告をするようにしている。	法人本部が主体となり家族アンケートが実施され、結果は本部で集約される体制を取っています。家族意見の聴取は、来所時や運営推進会議後に随時実施しており、外出希望が多いことで本部に大型車の購入希望を伝えています。	集約したアンケート結果を法人本部から事業所にフィードバックする仕組みを提案されてはいかががでしょうか。家族の意見を真摯に受け止め、運営推進会議の議題に挙げて検討されることをお勧めします。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やフロアミーティング・研修会・各委員会会議を毎月開催し、職員の意見や提案を聴けるようにしている。年2回は職員と個別面談を行う。	各種委員会、ユニット会議、全体会議開催時以外にも各ユニットリーダーを通して職員の意見を聴き取っています。外出の機会を増やす為に職員体制を変更したり、食材備蓄品の保管場所や浴室乾燥機設備の提案を受けて検討したりしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務評価シートを個々に作成し、それに応じて半年に1回は職員と面談し、個々の頑張りが目標達成度、その他相談・指導を行う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個別目標シート等を設け各ユニットリーダーがその都度、相談・指導が出来るようにし個人のスキルアップを目指している。その他施設内研修や外部研修を積極的に行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所連絡会や地域ケア会議・外部研修を通じ交流が図れる機会を設けている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントをしっかりと行い、その情報を元に最初は信頼関係を構築するためにコミュニケーションをしっかりと安心して頂けるように努めるように指導しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前には必ず施設見学を行っていただき、施設での生活内容等詳細を説明している。利用後も不安な事などがあれば、家族の希望に応じて個別相談を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の意向や今後どのような生活を望んでおられるのか、今何に困っているのかをしっかりと聞き取りし、それに応じて自施設が本当に適しているのかを検討している。必要に応じて他施設や事業、制度を紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力や生活に応じ施設での役割をしっかりと持たせていただけるように支援することで、過剰な介助を防ぎ、本来の本人らしい生活を送る助けになるのではと考えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には出来るだけ本人の状況を報告し相談させていただき意見なども積極的に伺えるようにしている。ご家族でないと出来ない役割をしっかりと理解頂けるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・友人・その他関係者の方が気軽に乗り越えられるように声掛けを案内を行っている。その他地域の行事や昔からの馴染みのある場所等出来るだけ行けるようにしている。	入居者の多くが区内在住のため、25日は馴染みの神社に出かけています。宗教や趣味を通しての友人の訪問も多く、交流を楽しんでいます。更に年末年始を自宅で過ごす方もあり、関係継続の支援に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者各々が役割を持って生活をしていただけているようで、職員が介入しなくても支え合っている場面を拝見しています。しかし認知症状によりどうしても介入しなければいけない場面も多々あります。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も連絡を取り、何かあれば気軽に相談頂ける様にお話しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各フロア会議の際に個人のケースカンファレンスを行い、現状の本人に必要な支援や要望をスタッフが確認出来るように心掛けている。	入居契約時には家族からはもちろん、担当ケアマネジャーからも情報収集を行っています。センター方式を活用して、生活歴やライフスタイルなどの把握に努め、本人本位の支援ができるよう努めています。	センター方式の一部分である「私の姿と気持ちシート」を生活日誌に綴じ、日常のかかりの中での「気づき」を、都度シートに書き込まれてはいかがでしょうか。多くの気づきを得ることで、入居者の更なる思いの把握につながると思われます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方のバックグラウンドを把握するために家族にも協力して頂きセンター方式等も活用し検討するようにする。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝朝礼時に各ユニットから利用者の状態等を報告し、その時に応じた対応を検討した上で職員が共有し対応できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を定期的に開催し本人・家族・関係者から意見を伺い介護計画に反映できるようにしている。	半年に1回モニタリングと再アセスメントを実施、担当者会議には本人・家族・看護師・職員が参加して計画書の見直しを行っています。計画書の2表(目標や支援内容が記載されたもの)を生活日誌に綴じることで、職員が入居者一人ひとりの目標や支援内容を確認することができるよう配慮されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には個々の介護計画がわかるようにファイルに添付し、それに沿って支援を行うことで職員間で理解し実践や計画の見直しが行えるように考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の送迎などのサービスについても本人・家族に応じて対応させて頂いている。出来るだけ希望沿えるよう柔軟な対応を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や地域交流会に地域包括支援センター、民生委員の方々や家族に参加いただくことで地域の情報などを共有し日々の支援に繋げるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診の他に半年に1回はカンファレンスを開き個々の経過や今後の対応などについて話し合いを行っている。その際は必ず本人・家族の意向を伝えるように努めている。	入居時に説明を行い、協力病院へ変更される方もいます。受診時には常勤する看護師が同行し、関係各所へ書面で報告を行っています。協力医療機関とは随時連携を図り、往診日に合わせて家族同席のもとカンファレンスが開催されています。緊急時は看護師が医療連携を図っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日施設看護師が体調確認を行い、必要に応じて医療機関への報告を行い相談・指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院時にはカンファレンスを病院で行い、病状の経過、今後の方向性や生活面での注意点を確認している。入院時の情報については必ず報告し連携がとれるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については契約時に重度化対応・看取り対応時の指針を説明し同意を得ている。「最期までおねがいます」というご家族様が多いいらっしゃるの、それに向けての研修などは定期的に行いしっかり体制が整えられるようにと考えている。	入居時に本人・家族に「意向確認書」で説明を行い同意を得ています。「看取り」に向けては研修計画に組み込まれており、年1回実施されています。事業所内に看護師が常勤しており、医師の協力も得られるなど、24時間医療との連携を図ることができる体制が整っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に施設内での研修も行っており、年2回の避難訓練の際には必ず救急対応も実施して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の避難訓練にも参加しており、地域の方々も高齢者施設であるという認識、理解をして頂いている。避難場所などの確認も行っており職員に周知している。	年2回(内1回は夜間想定で実施)消防署の協力を得て、避難訓練を実施しています。近隣住民にも声をかけて、訓練の様子を見学して頂きました。又、消防署からの指摘事項は運営推進会議で報告しています。職員に向けては、一時避難場所の周知や家族への連絡体制などを取り決めています。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	マナー・接遇には徹底した指導を行っている。出来るだけご本人様の意見や言葉を尊重し支援にあたるように心がけている。	「接遇マニュアル」が策定されており、研修の年間計画に組み込まれ、研修が実施されています。更に、研修報告書を提出する体制も整っています。職員の言動で注意すべき点があれば都度注意し、その事について話し合いを行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々にしっかり向き合って会話を行うように指導しており、会話が困難な方については、ご本人様が選択が出来る様な話し方をする様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間などある程度の1日の流れは予定としているが、その時のご本人様の体調や気分、意向を聞き臨機応変に支援できるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回理美容にも来て頂いている。着替えの際には本人の希望を聞きながら洋服を選ぶようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	役割分担が自然に決まっており、調理をされる方や片づけ、盛り付けなどもお手伝いして頂いています。職員に調理を教える方もいらっしゃいます。	ご飯と汁物は各ユニットで作成し、併設する小規模施設の調理師が、季節を取り入れた献立を毎日考えています。月2回は各フロアで入居者の希望を聞き取り、入居者が主体となって調理する等食事を楽しんでいます。又、レク委員会が主催する「手作りおやつ」が随時実施され、入居者と職員と一緒におやつ作りを楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下機能の低下が見られ食事形態が様々なので、個々に合わせた形態で対応しています。形態が変わってもおいしく食べていただける工夫を常に考えて対応するよう心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。職員が付きっきり状態の確認が出来る様に心がけている。必要な方には訪問歯科の利用も提案している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレ誘導を行い、夜間は必要に応じてパット交換やポータブルトイレの誘導を行っている。排尿などの間隔を把握する事で、日中のオムツの使用を防ぐように努めている。	排泄チェックシートを活用して一人ひとりの排泄パターンを把握しています。排泄の失敗がないように声かけするタイミングを計り対応しています。入院中にオムツ使用となった方が退院後トイレ誘導することでリハビリパンツにまで回復した事例や、リハビリパンツから綿パンツ対応になった事例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認行う事で早期に対応が出来る様に心がけている。毎日の体操やヨーグルトなどの乳製品、その他食物繊維を摂って頂ける様に努め、必要に応じてホットパックなども行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	原則週2回程度は入浴をして頂ける様に促している。基本的には曜日固定しているがご本人様の体調・希望を伺い、入浴時間や曜日などを変更し対応している。	週2回入浴を楽しめるよう支援しています。入浴時間は入居者の意向を尊重して、臨機応変に対応しています。希望があれば同性介助を行い、都度お湯の入れ替えを実施しています。入浴拒否の方へは、今までの生活歴を把握して、声かけの仕方を工夫しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しない程度でご本人様の希望に合わせて休息を取っていただける様にしています。夜間しっかり休んでいただく為に日中出来るだけ活動できるように考えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬情は各フロアーに設置し職員がしっかり認識・理解・確認を行い提供できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味や好みなどをご本人様やご家族から情報収集している。施設の買い物や業務用スーパーを好まれる方もおり一緒に行き選んで頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じた外出レクリエーションや個々の希望を伺いながら近隣を散歩したり、スーパーに買い物に行くなどの支援を行っている。	地域の商店に買い物に出かけたり、近隣にある図書館や喫茶店に出かける方もいます。季節ごとのドライブや植物園、動物園、大型スーパーへの外出も実施しています。近隣に神社仏閣が多いことで、今後毎日散歩に出かけられるように、職員体制や業務内容を検討する計画があります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、財布は個人で持っていておりません。何かを購入される際にはご家族様に確認をさせていただいた上で施設で立替させていただきます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと希望があれば施設から電話をさせて頂きご本人様に変わらせて頂いています。もちろんご本人様宛に連絡があった場合も同様です。年賀状などはレクリエーションなどで作ったりもしており、個人で手紙など書かれる方もおられます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるような装飾を行うように心がけています。	ユニット毎に和の色調で落ち着いた雰囲気を出しています。限られたリビングスペースの中で、少しでも入居者が動きやすいようにと、家具の配置を工夫しています。外出や食事を楽しんでいる写真や季節感を採り入れた切り絵などを華美にならないよう配慮しながら、居心地よく過ごせるように工夫がなされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々にご本人様の席や場所がなんとなく決まっているようで、落ち着かれていると感じている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様に協力して頂き、自宅で使われていた家具や写真などを部屋に飾っていただける様にしている。	手紙を書く方や読書をされる方は、居室に机を置くなど一人ひとりの意向を尊重した設えとなっています。又、仏壇を持参される方や家族写真を飾る方など、自宅のように居心地よく過ごせるよう配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の今出来ることを生かし、環境を整えたり工夫するよう心がけています。そして役割を持ち楽しく生活して頂けるよう日々試行錯誤しながら支援しています		